

#### 4. センターだより

##### 1. 情報メディアセンターにおける委員会活動

愛知大学情報メディアセンターには情報メディアセンター委員会があり、そのもとに名古屋センター委員会および豊橋センター委員会が置かれ、3校舎(名古屋, 豊橋, 車道)の管理, 運営が行われている。

2005年度後期に開催された、各委員会の議事は次の通りである。

###### 名古屋情報メディアセンター運営会議

2005年度

◇第4回 9月29日

1. 学生向けコンテストについて
2. 2006年度新カリキュラムに伴うセンター体制について
3. 補正予算について
4. 学術DB中間報告について
5. 2006年度実習室利用アンケートについて
6. 図書館からの申し出について

報告事項

1. 留学生向け日本語タイピングソフトについて
2. 実習室ソフトウェアのライセンスの扱いについて
3. 授業評価システムについて

◇第5回 10月20日

1. メディア教育開発室運営内規について
2. 経営学部FD委員からの申し出について
3. キャリア支援課資料ゾーンのPC設置について
4. 学祭に伴うセンター開室時間について
5. 教員講習会について
6. 2006年度新規予算事業(案)について
7. 実習室ソフトウェア購入について
8. 学生印刷枚数追加上限について
9. 学術DB中間報告書について
10. 図書館認証統合について

報告事項

1. プレゼンテーションコンテストについて

2. メディア教育開発室(インキュベーター・ラボ)使用許可申請書について
3. システム障害報告
4. 留学生向け日本語タイピングソフトについて

◇第6回 11月4日

1. 2005年度学術情報データベース名古屋センター開発分について
2. 2006年度新規予算事業(案)について
3. 2005年度教員講習会について
4. 実習室ソフトウェア購入について
5. 2005年度年末年始の開室について
6. 今後の運営会議の進め方について

報告事項

1. プレゼンテーションコンテストについて
2. システム障害報告
3. COM第28号発行について

◇第7回 12月2日

1. 2006年度新規予算申請について
2. 休日開館について

◇第8回 12月8日

1. 2006年度経常費予算申請について
2. 2006年度学生相談員募集について
3. プレゼンテーションコンテストについて
4. 教育用ソフトウェアについて

報告事項

1. 情報化推進委員会および分科会報告
2. 2005年度学術情報データベース進捗状況について
3. 教員IT講習会開催について

◇第9回 1月17日

1. メディア教育開発室利用内規について
2. 2006年度実習室ソフトウェアについて
3. 入試期間中のセンター開室について
4. 2005年度卒業生アカウントの有効期限について

報告事項

1. 第1回プレゼンテーションコンテスト実施報告

合同情報メディアセンター運営会議

2005年度

◇第1回 9月9日

1. センター運営方針について
2. ネットワーク設定変更(Telnet、FTP、VPN等)と運用について
3. 情報メディアセンター内規作成について

豊橋情報メディアセンター運営会議

2005年度

◇第3回 9月29日

1. 補正予算申請について
2. 2006年度情報教育カリキュラムに伴うセンター体制について
3. 学生対象情報活用コンテスト企画(案)について

報告事項

1. 2005年度秋学期教室利用状況について
2. 2005年度夏季休暇期間中の開放教室利用状況について
3. 新研究館引越し状況について

◇第4回 10月28日

1. メディア教育開発室運営内規について
2. キャリア支援課資料ゾーンのPC設置について
3. 学生印刷枚数追加上限について
4. 教員講習会について
5. 2006年度新規予算事業(案)について
6. 学祭に伴うセンター開室時間について
7. 2006年度相談員募集について
8. その他

報告事項

1. 情報活用コンテスト開催について
2. 経済学部FD委員からの申し出について
3. FD委員会からの依頼文書について
4. 図書館システムの認証統合について
5. その他

◇第5回 12月8日

1. 2006年度予算申請について(新規、経常)
2. 情報活用コンテスト審査について
3. 2006年度のソフトウェア整備についての要望
4. その他

◇第6回 3月23日

1. 新入生ID配布方法について
2. 学生相談員の運用について
3. 講習会実施計画について
4. その他

報告事項

1. 情報化推進委員会報告
2. その他

## 2. 情報メディアセンター主催行事

### ◆名古屋校舎

開講日	講習会名	教室	参加人数
9月7日(水)	PowerPoint講習会	第2実習室	中止
9月8日(木)	電子メール講習会	第2実習室	13人
	Word入門講習会		6人
9月9日(金)	Excel入門講習会	第2実習室	6人
9月12日(月)	Excel入門講習会	第2実習室	5人
9月13日(火)	Excel入門講習会	第2実習室	4人
9月14日(水)	電子メール講習会	第2実習室	15人
9月15日(木)	Excel入門講習会	第2実習室	11人
9月21日(水)	電子メール講習会	第2実習室	13人
9月22日(木)	電子メール講習会	第2実習室	20人
	電子メール講習会	第3実習室	14人
9月29日(木)	電子メール講習会	第2実習室	15人
	Excel入門講習会		14人
10月1日(土)	電子メール講習会	第2実習室	10人
10月3日(月)	Excel入門講習会	第2実習室	16人
10月6日(木)	電子メール講習会	第2実習室	15人
10月12日(水)	Word入門講習会	第2実習室	15人
10月13日(木)	電子メール講習会	第2実習室	15人
10月17日(月)	Excel入門講習会	第2実習室	15人
10月19日(水)	電子メール講習会	第2実習室	14人
10月20日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	6人
	電子メール講習会		14人
10月24日(月)	Excel入門講習会	第2実習室	15人
10月26日(水)	Word応用講習会	第2実習室	4人
10月27日(木)	Excel入門講習会	第2実習室	15人
10月31日(月)	電子メール講習会	第2実習室	15人
11月7日(月)	Excel入門講習会	第2実習室	6人
11月9日(水)	電子メール講習会	第2実習室	13人
11月10日(木)	Excel入門講習会	第2実習室	1人
11月16日(水)	Excel入門講習会	第2実習室	5人

11月17日(木)	Word入門講習会	第2実習室	3人
	電子メール講習会		7人
11月21日(月)	電子メール講習会	第2実習室	15人
11月24日(木)	PowerPoint講習会	第2実習室	4人
11月28日(月)	Word応用講習会	第2実習室	中止
11月30日(水)	電子メール講習会	第2実習室	7人
12月5日(月)	PowerPoint講習会	第2実習室	2人
12月7日(水)	電子メール講習会	第2実習室	3人
12月8日(木)	Word入門講習会	第3実習室	2人
12月12日(月)	電子メール講習会	第2実習室	4人
12月14日(水)	Excel入門講習会	第2実習室	8人
12月15日(木)	電子メール講習会	第2実習室	7人
1月11日(水)	Excel入門講習会	第3実習室	2人
1月12日(木)	電子メール講習会	第3実習室	8人
	Word入門講習会		1人
1月19日(木)	電子メール講習会	第3実習室	7人
3月2日(木)	Excel入門講習会	第2実習室	中止
3月9日(木)	電子メール講習会	第2実習室	2人
3月11日(土)	電子メール講習会	第2実習室	2人
3月15日(水)	電子メール講習会	第2実習室	中止
3月20日(月)	Word入門講習会	第2実習室	中止
3月22日(水)	Word入門講習会	第2実習室	中止

◆豊橋校舎

月 日	講習会名	教室	参加人数
9月28日(水)	無線LAN講習会	413	1人
10月19日(水)	無線LAN講習会	413	0人
11月14日(月)	無線LAN講習会	413	0人
12月20日(火)	無線LAN講習会	424	3人
3月1日(水)	無線LAN講習会	413	1人

◆車道校舎

開講日	講習会名	教室	参加人数
10月13日(木)	電子メール講習会	802	8
10月20日(木)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	802	2
10月21日(金)	電子メール講習会	802	3
10月28日(金)	一般常識としての表計算実習(Excel入門)	802	1
11月25日(金)	プレゼンテーション作成(PowerPoint入門)	802	4
12月2日(金)	電子メール講習会	802	2
12月15日(木)	プレゼンテーション作成(PowerPoint入門)	802	1
12月16日(金)	電子メール講習会	802	1
1月12日(木)	電子メール講習会	802	3
3月9日(木)	電子メール講習会	802	3

### 3. 情報メディアセンター運営会議構成員

#### 情報メディアセンター運営委員 (2006年9月26日現在)

役職名	所 属	身 分	氏 名	
所 長	短期大学部	助教授	龍 昌治	
副 所 長	法 学 部	教 授	坂東 昌子	
委員	豊橋センター運営委員	文 学 部	教 授	浅野 俊夫
		経 済 学 部	教 授	蔣 湧
		経 済 学 部	助教授	湯川 治敏
	名古屋センター運営委員	経 営 学 部	助教授	岩田 員典
		法 学 部	教 授	太田 明
		現代中国学部	教 授	土橋 喜

#### 情報メディアセンター事務室

情 報 企 画 課	課 長	中村 直美
	係 長	宮部 浩之
	S E	小野 秀之
		宮坂 昌樹
豊 橋情報メディアセンター	係 長	三浦 文博
	S E	石原 有希子
名古屋情報メディアセンター	係 長	秦 俊一郎

## 4. 愛知大学におけるコンピュータウィルスの動向及び対策について (5)

### ～スパイウェア編～

#### 1. はじめに

前回、前々回のコムでは、古くからコンピュータウィルスの主流であった「ワーム」「トロイの木馬」を取り上げました。今回は、コンピュータウィルスの範疇にはとどまりませんが、近年、不正・悪質なプログラムの一種として位置づけられている「スパイウェア」を取り上げ、その特徴・動向・対策について述べたいと思います。

#### 2. スパイウェアとは

IPA（情報処理推進機構）によると、「利用者の個人情報やアクセス履歴などの情報を詐取し、利用者以外のもに自動的に送信するソフトウェア」と定義されています。スパイウェアの多くは、ユーザーが気づきづらい方法でインストールされ、ユーザーの知らない間にユーザーの情報を外部に送信するという活動を行います。

コンピュータウィルスとの違いは、その活動の目的にあり、コンピュータウィルスが破壊活動を主目的としているのに対し、スパイウェアは経済活動を主目的としています。例えば2005年7月には、大手インターネットバンクの利用者をターゲットとしたスパイウェアが出回り、ログインパスワードなどを盗み取られて不正送金の被害に遭う事件が発生しています。

また、広義では、インターネット参照履歴などをユーザー毎に判別できる状態で情報を収集し、ポップアップ広告の表示などに利用する活動を行うようなものも、スパイウェアと分類されます。ただし、Webサイトアクセス時やソフトウェアインストール時の使用許諾契約などに、その旨の活動について記されている場合もありますので、注意する必要があります。

#### 3. 感染経路と動作の特徴

下記のような感染経路が考えられます。

- ・ 無料ソフトウェアの機能の一部としてインストールされる。
- ・ Webサイトから、ActiveXコントロールや不正なスクリプトなどにより、ダウンロードされる。
- ・ ブラウザなどの脆弱性から侵入する。
- ・ メール添付ファイル、共有ファイルなどに含まれる未確認のファイルを実行することによりインストールされる。

また、PCが下記のような動作を見せた場合、スパイウェアへの感染を疑う必要があります。

- ・ PC起動時やWebを参照していないときでも、ポップアップ広告が表示されてしまう。
- ・ ブラウザ起動時に表示されるWebページの設定や、検索ページなどの設定が変更されていて、元に戻すことができない。

- ・ ブラウザに、覚えのないツールバーなどが表示されていて、削除することができない。
- ・ 突然メッセージボックスが現れ、ユーザーアカウントやパスワード入力を求められる。
- ・ PCの動作が遅い。

## 5. 本学での対策、ユーザーが取るべき対策について

本学では、インターネットと学内 LAN の間にファイヤウォールを設置することにより、不審な通信ポートを利用した情報送信は防ぐことができますが、一般的な Web での通信においては防ぎきることが困難です。また、メールチェックサーバーにより、メール添付によるトロイの木馬型として侵入しようとするスパイウェアについては防御することができますが、それ以外の場合については、検出が困難です。

そのため、スパイウェアによる被害に遭わないためには、ユーザー自身による注意と対策が重要になります。IPA（情報処理推進機構）が推奨する下記の対策を心がけてください。

### パソコンユーザのためのスパイウェア対策5箇条

1. スパイウェア対策ソフトを利用し、定期的な定義体ファイルの更新およびスパイウェア検査を行う
2. コンピュータを常に最新の状態にしておく
3. 怪しいサイトや不審なメールに注意
4. コンピュータのセキュリティを強化する
5. 万が一のために、必要なファイルのバックアップを取る

補足 自分で管理できないコンピュータでは、重要な個人情報の入力を行わない

## 参考

- ・ IPA（情報処理推進機構） <http://www.ipa.go.jp/index.html>
- ・ Microsoft スパイウェア情報  
<http://www.microsoft.com/japan/athome/security/spyware/default.msp>
- ・ アークン社 スパイウェアリサーチセンター  
<http://www.ahkun.jp/researchcenter/SpywareResearchCenter.html>
- ・ シマンテック社 <http://www.symantec.com/ja/jp/index.jsp>
- ・ マカフィー社 <http://www.mcafee.com/japan/>
- ・ トレンドマイクロ社 <http://www.trendmicro.co.jp/home/>

(情報企画課 小野秀之)



## 5. 自己紹介

情報企画課 宮坂 昌樹

この度、情報企画課に配属となりました宮坂昌樹と申します。

前職では総合電機メーカーの情報部門に所属し、サーバやPCなどのハードウェア、ソフトウェア、また各種ソリューションやSIなど、幅広い製品の拡販業務に携わっていました。

その後、2年程前に本学名古屋校舎にあります21世紀COEプログラム研究拠点「国際中国学研究センター（ICCS）」に転職しました。情報企画課配属前のICCSでの2年間は、主に遠隔多方向コミュニケーションシステム（RMCS）の運用、管理を担当していました。このRMCSとは、POLYCOMテレビ会議やパソコンを使用したPCテレビ会議システムなど、ICCSが所有する遠隔コミュニケーションツールの総称です。ICCSでは、講義や研究会などにこのRMCSが利用されており、日本と中国の教室をテレビ会議で接続して講義を配信したり、日本で開催している研究会に中国から参加してもらうなど、日中間の研究者、学生交流が盛んに行われています。北京にある中国人民大学および天津にある南開大学にはICCSの分拠点があり、RMCSで使用する機材やパソコンなどが設置されているため、それまで1度も海外に行ったことのなかった私でしたが、ICCS在職中の2年間に10回近く中国に出張させていただきました。日本だけでなく中国の大学教授、職員、また現地プロバイダ業者との仕事は、滅多にできない貴重な経験をさせていただいたと思っています。仕事以外にも、タクシーに通常の倍の金額を請求されたり、現地の料理にあたって病院のお世話になったりと苦い経験もしました。まさか、人生初のCTスキャンを中国ですることになるとは夢にも思いませんでした。（皆さん、中国に限らず海外で生ものを口にするときは十分ご注意ください）もちろん、そんな経験ばかりでなく良いことも数多くありました。何より、友達と呼べる中国人ができたことを非常にうれしく思っています。彼らとは今でも連絡をとりあっています。ニュースなどで中国における反日デモなどを目にするると、中国人は日本人が嫌いなのではないかと思ってしまうのですが、決してそうではないことに気づきました。ICCSでの2年間、中国の文化に触れ、多くの中国人と出会ったことによって、中国の方に対する「接し方」を学べたように思います。本学には中国人留学生が多く在籍していますので、機会があれば、ICCSでの経験と2年の間に習得した挨拶レベルの中国語をフル活用し、少しでもそういった学生の役に立てればと思っています。

情報企画課に配属されてから1ヶ月が経とうとしています。今はまだ、仕事の内容を覚えるのに精一杯の状況ですが、少しでも早く情報企画課の戦力になればと思っています。当分の間、皆さんには何かとご迷惑をお掛けするかと思いますが、何卒ご指導よろしくお願いいたします。

## 6. 編集後記

企業においてビジネスの成功をもたらす最も大切な経営資源は社員という人的な資源です。企業の生産・経営活動において、技術革新から新製品を生み出し、顧客との関係を維持・成長させ、他社との間にパートナーシップを構築し、より高い価値を生み出すために業務の改善を実行するのは、「社員」の力に他なりません。

最近、「社員の力」を高めるための“社員力 強化プロジェクト”が現れています。大手 M 社の“社員力 強化プロジェクト”には、「社員の Office Work Style」が最重要な項目として挙げられている。その Office Work Style を総合てきに評価するために、以下の 5 つの IT 活用シナリオが提示されています。

1. コミュニケーション シナリオ
2. 情報共有シナリオ
3. データ活用シナリオ
4. 生産性向上シナリオ
5. 情報セキュリティ シナリオ

この 5 つの IT 活用シナリオから、社員の生産性・創造性の向上に役立っているかどうか、社内外とのコミュニケーションや協業が円滑に行われ、組織としての競争力を維持できているかどうかなどを評価することができると考えています。

いま、新旧カリキュラムの過度期においた大学の情報教育に対し、上述の 5 つの IT 活用シナリオは大学における情報教育の評価に大きなヒントが与えられている。現役大学生の Learning Style は、未来の社員の Office Work Style につながることに違いありません。

今回の COM には、「インターネット上の情報検索」、「情報論理 e-Learning コースウェアの開発と試行」、「学術情報データベース」、3 つのキーワードをもって、皆さんにお届けします。この 3 つのキーワードは、IT 活用力の向上と学生の Learning Style の変化に密接な関係があり、皆様に教学に役に立つことを切望しています。

(Y.J)

## 愛知大学情報メディアセンター紀要COM 原稿募集要項

情報メディアセンター紀要「COM」は、年2回発行され、下記の要領で原稿を募集しています。詳細につきましては情報メディアセンターまでお問い合わせください。

### 1. 著者の資格

- (1) 本学教職員および本学教職員との共著者
- (2) 本学非常勤教員
- (3) 本学学生（教員の推薦があるものに限る）
- (4) 編集委員会が認めたもの

### 2. 投稿原稿の内容

投稿原稿は未発表のもので、下記に関係する内容とする。

- (1) 情報教育に関する理論と実践
- (2) 情報科学や情報工学に関する理論とその応用
- (3) 情報システムに関する調査、分析、理論
- (4) コンピュータを活用した研究、教育、および業務等の実践報告
- (5) 本学のコンピュータ利用に関して必要と思われる情報処理センターの報告
- (6) その他（編集委員会が認めたもの）

### 3. 投稿原稿の種類

投稿された論文は編集委員会によって、下記のように区分して掲載する。

- (1) 論文
- (2) 研究ノート
- (3) 解説
- (4) COM コーナー
- (5) その他（編集委員会が認めたもの）

※なお解説については、新たな研究動向や新技術の解説とその意義や影響などとする

### 4. 投稿原稿の体裁

- (1) 和文・英文を問わないが和文が望ましい。
- (2) 原稿用紙は B5 サイズとし、1 ページに 45 字×35 行程度（1575 字程度）で印字し、文字サイズは 10 ポイントとする。
- (3) 原稿の冒頭にはタイトル（サブタイトルも含む）、所属、著者名を表記する。
- (4) 裏表紙（目次用）として、タイトル、著者名の英文を添えること。
- (5) 完成された投稿原稿のみを受理する。
- (6) 複製印刷が可能ないように原稿を仕上げること。（手書きの原稿は認めない）
- (7) 美しく仕上げるために、フロッピーを添えるのが望ましい。
- (8) 提出するフロッピーには、ファイルを作成したソフト名および投稿原稿のファイル名を明記すること。使用ソフトは Microsoft Wordまたは PDF 形式が望ましい。（使用ソフトによっては、図表の部分が複製印刷となる場合もある）
- (9) 著者は連絡先（ゲラ等の送付先）の住所、電話番号等を明記すること。

## 5. 校正

- (1) 校正は著者校正を2回とする  
(フロッピーのままですべて校正を行わない場合は、その旨事前に連絡する)
- (2) 校正段階での内容の変更は、総ページ数を変更しない範囲で行なうこと。
- (3) 別刷りは論文ごとに各30部までは無料とする。
- (4) 著者には紀要を2部進呈する。ただし希望があれば10部を限度として進呈する。

## 6. 著作権

- (1) 提出された論文の著作権は、原則として愛知大学情報メディアセンターに属し、無断で複製あるいは転載することを禁じる。
- (2) 論文作成に際して用いたコンピュータソフトや映像ソフト等の著作権に関する問題は、著者の責任において処理済みであること。他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。
- (3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合、著者がその責を負う。
- (4) 著作人格権は著者に属する。

以上

申し込み・問い合わせ： 愛知大学情報メディアセンター

TEL : 052-937-8120(内線 3100)

FAX : 052-937-8121

---

---

愛知大学情報メディアセンター紀要 COM〔コム〕  
Vol. 17 No.1 第30号

2006年9月21日 印刷

2006年9月26日 発行

編集 愛知大学情報メディアセンター  
「COM」編集委員会

発行 愛知大学情報メディアセンター

(名古屋) 愛知県西加茂郡三好町黒笹370  
〒470-0296 TEL (0561) 36-1117 (直通)  
FAX (0561) 36-2781

(豊橋) 豊橋市町畑町1-1  
〒441-8522 TEL (0532) 47-4124 (直通)  
FAX (0532) 47-4125

(車道) 名古屋市東区筒井2丁目10-31  
〒461-8461 TEL (052) 937-8120 (情報企画課直通)  
FAX (052) 937-8121

印刷 有限会社 三星印刷

---

---